

同志社講座、2017年7月7日

「良心」の現代的意義

同志社大学 神学部 教授、良心学研究センター長 小原克博

<http://www.kohara.ac>

1. はじめに——なぜ私は「良心」を考えるようになったのか

- 1) 同志社科目の開設 (2005年)
- 2) 複合領域科目「良心学」の新設 (2014年)
- 3) 良心学研究センターの設立 (2015年)

2. 神学 (キリスト教) との関係

- 1) corruptio optimi pessima
- 2) 500th Anniversary
- 3) カルヴァン vs カステリオン

シュテファン・ツヴァイク『権力と戦う良心——カルヴァンとたたかうカステリオン』(『ツヴァイク全集』17、みすず書房) *Ein Gewissen gegen die Gewalt: Castellio gegen Calvin*

3. 「良心」概念の系譜

- 1) 西洋における「良心」

conscience ← conscientia (コンスキエンティア、ラテン語)

= con (共に) + scire (知る)

- 2) 誰と「共に知る」のか?

- ・自己の内面的な対話 (内なる他者との対話) 【個人的良心、自律的良心】
- ・他者と「共に知る」 【社会的良心、他律的良心】
- ・神と「共に知る」 【信仰的良心、神律的良心】

3) 日本における「良心」

conscience の訳語として「良心」が最初に用いられたのはブリッジマン・カルバートソン訳『新約聖書』(1863年)において。『孟子』から取られた。(『角川新字源』)

4) 19世紀のアメリカ

リベラルアーツを継承した「哲学」

- ・自然哲学 (natural philosophy) → 自然科学
- ・知識哲学 (mental philosophy) → 論理学、心理学
- ・道徳哲学 (moral philosophy) → 倫理学、政治学、経済学

conscience は興隆する道徳哲学を背景として重視された。☞『良心を考えるために』第II部「新島襄と良心—その歴史的背景」

5) キリスト教的価値と世俗社会(啓蒙的価値)をつなぐ力としての「良心」

4. 良心学の展開

1) 「統合知」としての良心

「良心」に隣接する諸概念(道徳、倫理、意識、認知能力、共感、利他性、対話など)を用いながら、幅広く人間の精神と行動を研究する。

「共に知る」ことを原義とする良心の現代的機能は、細分化した多様な学問領域を「接着剤」のようにつなぎ合わせる「統合知」。

2) 「実践知」としての良心

新たな価値を広げ、社会に影響を与えていくためには、コミュニケーション能力やリーダーシップといった「実践知」が必要。

3) 良心学の方法論(統合知)

4) 新島襄の冒険的生涯(倜儻不羈^{てきとうふき})を背景とした良心(実践知)